

雄弁な沈黙 哲学史における 性というカテゴリー

*Das beredte Schweigen. Die Kategorie Geschlecht in der philosophischen
Ideengeschichte*

2026.10.9 正

17:20-19:00

獨協大学W-315

哲学史を紐解いてみると、古代ギリシャ哲学から20世紀に至るまで、多くの哲学者が性というテーマについて思索を積み重ねてきたことが分かる。そうであるにもかかわらず、20世紀に至るまで、哲学史における性というテーマはアカデミックな哲学研究においてほとんど受容されることがなかった。こうした受容上の「沈黙」は何を語っているのだろうか。そして、こうした沈黙を破り、哲学史の中で性というカテゴリーについて語られてきたことを現代のわれわれが学ぶことによって何が明らかになるのだろうか。この講演は、こうした問いから出発して、哲学史における性についてのいくつかの考え方の特徴をたどりながら、性概念がもつ歴史的性格とそれが現代においてもつメッセージについてお話しいただくものである。



講演者

Friederike Kuster

Friederike Kuster (フリーデリケ・クスター) 教授はミュンヘン・ボーフム・ヴッパタールの各大学で哲学・神学・社会科学を学んだのち、1990年にフッサールの倫理学についての論文により博士号を、2004年にはルソーの性・家族論についての論文により教授資格をそれぞれ取得し、2012年よりヴッパタール大学哲学部教授を務め、現在は同大学名誉教授である。哲学史の中での性概念の変遷とその意義を再構成する「哲学的性理論」を主導し、入門書 (Zur Einführung : Philosophische Geschlechtertheorien. Junius-Verlag, Hamburg 2019) を刊行している。

主催 岡崎龍

(科研費研究課題25K22954 :

「ドイツ古典哲学の平和構想における歴史哲学の意義—カントとFr.シュレーゲルを中心に」)

問合せ先 k24023@dokkyo.ac.jp (岡崎)

後援 獨協大学外国語学部ドイツ語学科